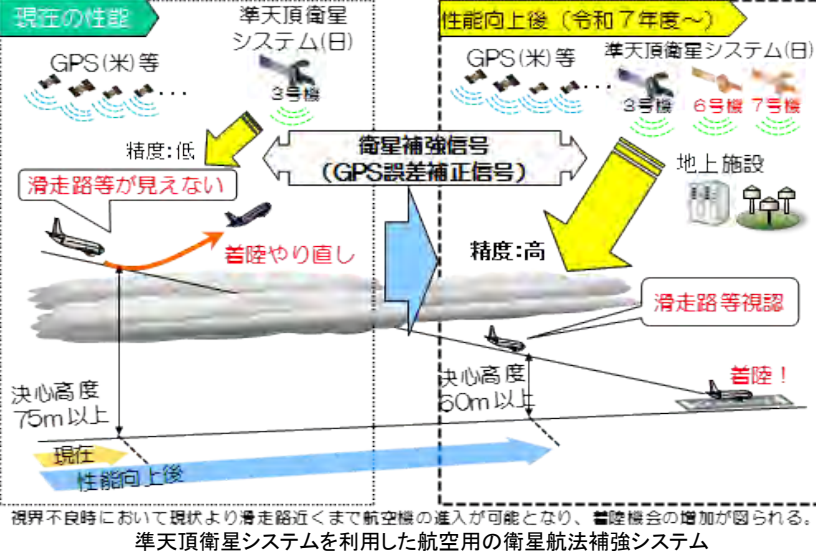


●国土交通省では、静止気象衛星の整備・運用のほか、航空用の衛星航法補強システムや海洋状況表示システムの地上整備等、国土交通分野への衛星測位や衛星データ等の利活用に向けた取り組みを推進

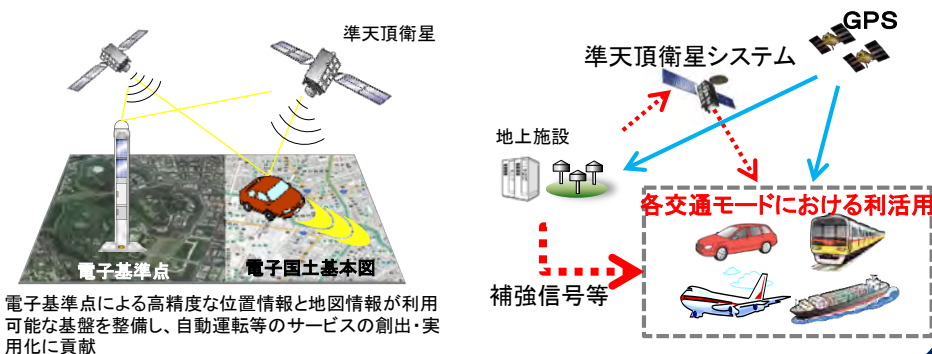
### 1. 宇宙安全保障の確保

《準天頂衛星システム(みちびき)の利活用の促進等》

○準天頂衛星システムを用いた衛星航法補強システム(SBAS)の高度化

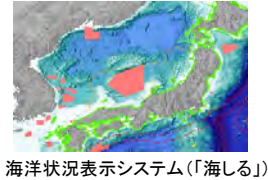


○衛星測位を活用する上での基盤となる電子基準点網や電子国土基本図の整備・更新等  
 ○準天頂衛星システムの各交通モードにおける利活用に向けた開発



《海洋状況把握》

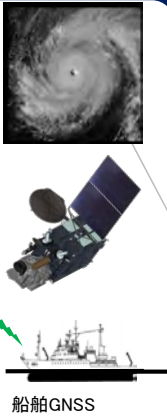
- 気象衛星等から得られる海洋情報を集約・共有・提供する、「海洋状況表示システム」(海しる)を機能強化
- 全国の広大な海域の様々な脅威に対応するため、衛星情報の取得・活用、無操縦者航空機等により、監視能力を強化



### 2. 災害対策・国土強靱化や地球規模課題の解決への貢献

《静止気象衛星の運用・線状降水帯対策》

- 国民の安心・安全に欠かせない静止気象衛星ひまわり8号及び9号を運用。また、後継衛星について、線状降水帯等の監視のため高密度観測など最新の技術を取り入れるべく調査等を加速
- 線状降水帯の予測精度を向上するため、気象庁観測船等での船舶GNSS観測により海上の水蒸気量を観測



《災害対策・国土強靱化への衛星データ(画像データ)の活用》

- 衛星画像等の技術の導入を通じ、港湾施設の速やかな被災状況把握を実現し、頻発化・激甚化する災害への対応力を強化
- 災害時における初動対応の迅速化のため、衛星等を活用した被災状況を把握するための技術開発を推進

### 3. 宇宙科学・探査による新たな知の創造

《建設機械の無人化施工技術の開発推進》

- 無人化施工技術について、3次元データ等を活用した更なる効率化、自動・自律化に向けた技術開発等を推進



### 4. 宇宙を推進力とする経済成長とイノベーションの実現

《地理空間情報の流通・利用促進の検討》

- G空間情報センターを中核とした地理空間情報の相互連携機能の強化を促進

《サブオービタル飛行(\*)への対応》

- 官民協議会を中心に、国内事業者の実証実験の安全確保を支援するほか、将来のビジネス展開に資する環境整備の検討を加速



我が国におけるサブオービタル飛行の開発事業者の例(PDエアロスペース)

(\*) 地球周回軌道に至らない放物軌道上の飛行